



大友克洋「童夢」からインスピレーションを得た驚異の映像に、世界が震撼&絶賛  
『ミッドサマー』『LAMB／ラム』に続く北欧発のサイキック・スリラー

第74回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門に出品され、ノルウェーのアカデミー賞と呼ばれるアマンダ賞で驚異の4冠を獲得。世界の映画祭で16映画賞を受賞し、観客を絶賛と衝撃の渦に巻き込んだ問題作がついに日本上陸。

監督・脚本を手掛けたのは、ノルウェーを代表する映画監督ヨアキム・トリアーの右腕として『母の魂像』『テルマ』などの脚本を共同で務め、『わたしは最悪。』でアカデミー賞・脚本賞にノミネートされた鬼才エスキル・フォクト。

子供たちの夏休みを、かつて誰も見たことのない、無垢なる恐怖で動き上げた。また、世界中に多くの熱狂的ファンを持つ大友克洋の傑作漫画「童夢」からインスピレーションを得た本作は、特異な世界観のみならず、不穏な予兆と驚きに満ちたサイキック描写においても傑出した迫真性を獲得。大人が一切介入しない、子供たちの「危険な遊び」は予測不能な想像を絶する結末へと突き進む。

『わたしは最悪。』脚本家、鬼才エスキル・フォクト監督最新作

緑豊かな郊外の団地に引っ越してきた9歳の少女アイダ、自閉症で口のきけない姉のアナが、同じ団地に暮らすベン、アイシャと親しくなる。

アイシャは互いに離れていてもアナと感情、思考を共有できる不思議な能力を秘めていた。夏休み中の4人は大人の目が届かないところで、魔法のようなサイキック・パワーの強度を高めていく。

しかし、遊びだっただけの時間は次第にエスカレートし、取り返しのつかない狂気となり(衝撃の夏休み)に姿を変えていく――。

# 衝撃の夏休みが始まる

カンヌ国際映画祭  
ある視点部門正式出品

アマンダ賞  
監督賞・撮影賞・音響賞・編集賞

INNOCENTS

監督・脚本：エスキル・フォクト(『テルマ』) 撮影監督：シュトルム・ブラント・グロヴレン(『アナサーラカンド』)  
2021年「ノルウェー・チンマーク・ファンランド・スウェーデン・ノルウェー」編 117分 | シネマスコープ | カラー | 5.1ch | 原題：De uskyldige | 英語：THE INNOCENTS  
日本語字幕：中沢志乃 北條：松竹、ロングライド 美術：ロングライド ©2021 MER FILM, ZENTROPA SWEDEN, SNOWGLOBE, BURO, LOGICAL PICTURES. ©Mer Film

innocents.jp innocents @innocents MOVIE

ヒーロー映画に落胆してきた大人への映画——The Times  
冷たく澄んだ昼光の下でみる悪夢——The Guardian

7.28 FRI ロードショー  
ムビチケオンライン券 ¥1,500 (税込) 発売中



JR新宿駅東口 伊勢丹メンズ館そば  
新宿ピカデリー  
050 (6861) 3011 www.smt-cinema.com/site/shinjuku/

